## 当院のご紹介 新築移転のご紹介を兼ねて

医療法人 横尾病院 院長 横尾 秀康

この度、諫早医師会ニュース「谺」の病院紹介 コーナーへの投稿の依頼を承りました。当院につ きまして、簡単に紹介させていただきます。

はじめに、日頃より諫早医師会の運営に忙しい時間を割いておられる医師会役員の皆さま、さらに地域医療に携わっておられる諫早医師会の会員の皆様には、大変お世話になっております。この場を借りて、厚く御礼申し上げます。

今年(令和2年)は世界中が新型コロナウイルス感染の禍にさらされてしまった大変な年になってしまいました。諫早医師会の会員の先生がたにも気が休まる時がない時間を過ごしておられることでしょう。当院でも感染リスク対策として受診時のチェツク、入院しておられる方々には面会の制限などご不自由をおかけしています。全職員については、マスク、手洗いなど標準予防策の遵守、三密を避け、新しい生活様式の取入れや県外をまたぐ移動の自粛等、感染拡大防止に努めています。このように大変な年になりました。

さて、当院のご案内ですが、病院の位置するところは、橘湾沿岸を通る国道251号へつながる県道55号線の道沿いに位置しています。この諫早市川床町で昭和43年に開院し、地域の精神科医療に携わってきました。

この度、令和2年3月1日より、病院全体を新築し移転する運びとなりました。移転先は旧病院の隣に建築いたしました。これまでの病院は二度にわたる改築を行いましたが、老朽化が進み、いろいろとご不便をかけてきました。

入院される方にとっては、治療環境、療養環境が、病状の完治にとって特に大切であると考え、それを改善し、より良い環境整備が入院されている方の病状回復に大きく影響をもたらすものと常日頃から考えておりました。そしてこのことを第一の検討課題として取り上げ、取り組んできました。

これまでに言い尽くされてきていることですが、現在もなお多くのストレスを生み出す世の中の状況があります。そのようなストレスの多い中で暮らしていますが、不安、緊張、やる気が出ない、倦怠感、抑うつ、不眠、または飲酒、ギャンブルなどの依存、引きこもりなど様々な問題を抱

えて一人で悩んでおられる多くの方々がいます。 これらの問題を抱えてしまい心の病気に陥ってしまわれます。さらに、人口の高齢化が深刻な問題となってきていますが、認知の障害を抱え、お世話しておられる方では対処困難な問題として昼夜逆転、落ち着かない、徘徊、抵抗、暴言、暴力など、認知の障害に付随する周辺症状(行動・心理症状)の存在があります。

このように様々な問題を抱え精神の障害に悩んでおられる多くの方々が、外来受診または入院されますが、その回復に大きく影響をもたらすものの一つに、施設の環境が重要な働きになると考えます。

今回、新病院を建設するに当たり、病を抱えた 方々に対しその病からの回復を導き出すため、心 地良い刺激をあたえる環境づくりを目指しました。

病室の約8割が一人部屋で、プライバシーに配慮した造りになっています。"一人になれてホッとできる""静かに過ごせる"といった落ち着ける雰囲気が、心にゆとりを生み、心の癒しにつなが

ることと思います。 病院に足を踏み入れ た時から、落ち着き を感じていただくよ うに心がけ、その環 境づくりに配慮し、 設計に当たりました。



これまでに行ってきました様々な診療に加えて、新しい診療環境を利用し、より一層の治療効果をもたらすものと考えています。入院されている方々にとっては、安定した家庭、自宅での生活が続けられるように、退院後の自立した社会生活の支えとして定期的な訪問看護を利用していただき、また、外来治療の一環としてデイ・ケアを利用してもらう。また、単身生活の方にとっては、でいます。加えて、生活の場が利用できない、では、身の周りの世話を行いだっては、身の周りの世話を行いながら生活できるグループホームを利用していただき、さらに、ある程度自立した生活が可能な大については、共同で生活でできる環境を整えています。社会での生活を行える環境を整えています。

飲酒への依存の方々に対しては、嗜癖の問題、 ご本人を取り巻く家族、関係者の方々との関係な どについて、当事者間での討論を行う集団療法を 施し、飲まなくなっておられる当事者と話し合う